

タイトル：「おっさんの掟」～大阪のおばちゃんが見た日本ラグビー協会「失敗の本質」  
(189ページ)

出版社：小学館 2022/2/1(発売日)



著者：谷口真由美 [タニグチマユミ]

1975年大阪府生まれ。法学者。大阪芸術大学客員准教授。専門は国際人権法、ジェンダー法など。「全日本おばちゃん党」を立ち上げ、テレビやラジオのコメンテーターとしても活躍。2019年6月、日本ラグビーフットボール協会理事に就任。2020年1月にラグビー新リーグ法人準備室長に就任。その後新リーグ審査委員長も兼任するが、2021年2月に法人準備室長を退任。6月に協会理事、新リーグ審査委員長も退任(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

内容：2022年1月に開幕したラグビー新リーグ。その発足に向け中心的な役割を果たしていたのが、前年まで法人準備室長・審査委員長を務めた谷口真由美氏だ。彼女はなぜ突如としてラグビー界を追われたのか、その秘された理由を明らかにする。

彼女が目にしたラグビー界は、男性中心主義、時代遅れな序列主義など「おっさん」的価値観が支配する、ダメな日本社会の縮図だった……。

巻頭対談 川淵三郎×谷口真由美

◎ラグビー界の「壁」は厚かった

\* 川淵:谷口さんは「男社会」のラグビー界に、革命を起こす存在だと期待していました。

◎日本に蔓延する「現状維持」の病

\* 川淵:「大義」よりも「組織の論理」を優先させてしまうのは、日本社会の古くからの悪しき体質だね。

\* 谷口:30代くらいの若い人たちは、前向きな質問や、提案をしてくるんですよ。

\* 川淵:一番大切なのは、「大義があるかどうか」だと思う。

\* 谷口:新リーグ「JAPAN RUGBY LEAGUE ONE」の成功を心から願っている。

第1章 カラスの群れにヒョウ柄のおばちゃん

◎運命を変えた電話

\* ラグビー協会の理事に推薦の突然の電話が、2019年5月にあった。

◎私は「ピッタリのおばちゃん」

\* 著者は父親の関係から、花園ラグビー場で育った。

◎人生のハーフタイムのはずが

\* 44歳になり、人生のハーフタイムとして、1～2年は研究休暇と計画していた。

◎"後押し"したのはあの実力者

\* 名誉会長の森喜朗に抜擢された清宮さんに後通しされた。

◎5人の女性理事

\* スポーツ庁のガバナンスコードの女性登用40%に近づくために、5人の女性理事が。

◎議論より「顔見せ興行」

\* 上層部で決められた内容を発表するだけで、それが恒常化していた。

◎多すぎる「陪席者」

\* 実質的な議論は行われなかった。

◎サンウルブスに2億 5000 万円

\* 幹部が決めたことをただ受け入れる「イエスマンたちの集まり」と判明。

◎寄付金額がステータス

\* 「ラグビー村のおかしな掟」は、昭和の時代で時間も価値観も止まったままの「おっさん社会」の表れ。

## 第2章 改革の急先鋒・清宮兄さんの失敗

◎「プロ化だよ、プロ化！」

\* 清宮副会長は、イノベーションプロジェクトチームで、プロ化を目指す。

◎ラグビーを語らせたら右に出る女はいない

◎イノベーションプロジェクトチーム

\* プロジェクトチームのリーダーは清宮さん、そしてメンバーの多くは「清宮派」の若い衆。

◎敵は協会内部にあり

\* 協会副会長に抜擢された清宮さんに対する世間の評価とラグビー協会内部での評価は温度差があった。

◎「清宮宣言」で大紛糾

\* チーム清宮は、理事会に報告せず、正当な手続きを飛ばしたため、物事はうまく進みませんでした。

◎後ろ盾は森喜朗

\* 年功序列が幅を利かすタテ社会で、長老(森喜朗)に抜擢された若手(清宮さん)が改革の名のもとに権勢を振るう……それを快く思わない人たちが多く、多くの反発が起きた理由のひとつでした。

◎わずか4か月でチーム解消

\* 企業チームの「清宮外し」の声が大きくなり、肝腎の森重会長も改革に積極的でなく、チームは4か月で解消。

## 第3章 神輿に担がれて「新リーグの顔」へ

◎ワールドカップの副反応

\* ワールドカップの成功により、協会内で「根拠なき楽観論」が。

◎板挟みの岩淵専務理事

\* 清宮さんと共に若手として抜擢された岩淵さんは、清宮さんと協会内部との軋轢で苦勞されていた。

◎法人準備室長

\* 新プロリーグ設立準備委員会は、「新リーグ準備室」と「マーケティング会社準備室」に改組され、各室長に前者が筆者、後者が清宮さんに。清宮さんを世間的に傷つけてはいけないという意図があったのかもしれない。

◎「清宮派」の再集結

\* 清宮派にはラグビー協会のメンバーはおらず、「清宮派+電通」 vs 「協会内の反清宮派」の軋轢が心配された。

◎もう「ボランティア」の範疇外

\* 例えば新リーグの広報は、準備室の担当だが、スタッフも少なく、激務に。

#### ◎「一般社団法人ジャパンラグビートップリーグ」

\* 現実には1年以上前に「新プロリーグを運営する法人」が設立されていたが、精算することも出来ず、それが反清宮の原因の一つになっていた。

#### ◎25チームは「外せない」

\* 「一般社団法人ジャパンラグビートップリーグ(JRTL)は様々な問題を抱えていたが、この法人を残すしか道はなく、新リーグには既に25チームが加盟済みで、上位・下位のディビジョン分けが必要になってきた。

### 第4章 「チーム審査」と大義

#### ◎新リーグの絶対条件は「地元密着」

\* 2017年から2部リーグ制となり、1部リーグのトップリーグがスタートしたが、各チームが地元密着した経営を行っているとは言えない状態だった。各チームの観客動員数も頭打ちの状態であった。

#### ◎「参入要件の骨子」に示した大義

\* 「新リーグの大義」と「各所へのヒアリング」をもとにまとめたものが、参入要件の骨子。

\* そして、これによる審査は、「振り分けありき」でスタートしたものではありませんでした。

#### ◎685点満点の書面審査

\* 25チームを対象として戦績だけでない書面審査を開始したが、対応が出来ないというチームもあった。

#### ◎記事の切り抜きだけを提出した企業

\* レポートの提出期限は2020年6月末でしたが、その出来映えには大きな差があり、「やっつけ仕事」としか思えないレポートも散見された。

#### ◎審査委員会立ち上げと「3部リーグ制」

\* 大変過酷な努力の末、同年9月に正式に「審査委員会」が立ち上がり、審査がスタート。

#### ◎清宮兄さんの"完全撤退"

\* 筆者を協会に招き入れたひとりの清宮さんが、「新リーグマーケティング会社準備室」室長を退いたのです。恐らく、「ラグビー村のおっさんの掟」を完全に逸脱した事で外されてしまったようです。

\* そして、年が明けて、2021年1月、「おっさんたちの掟」は筆者にも襲いかかるのです。

### 第5章 かくして「審査」は反故にされた

#### ◎「暫定順位」にざわついたラグビー界

\* トップリーグ関係者との合意の上で決められた順位だったのだが、トップリーグに入れなかったあるチームは、森重会長を「裏で動かし」、その順位をねじ曲げようとした。

#### ◎「わきまえない女」発言の真相

\* 1月に出した暫定順序について「谷口(筆者)批判」が吹き荒れていたその時期に、ラグビー界の最重鎮の森喜朗・東京五輪競技大会組織委員長の例の問題発言があった。恐らく、森氏は「わきまえない女がいて、困る」とラグビー協会内で報告されていたようです。

#### ◎「法人準備室長」解任

\* 一緒に改革を進めてきた岩淵専務理事から、引導を渡された。協会の論理を優先されたのだと思われる。

#### ◎不自然な「入れ替え」が発生

\* それでも筆者は、責任上、最終審査を終わらせたが、森重会長は私的な諮問委員会を立ち上げ、12位だった近鉄を13位に落とし、代わりに13位のトヨタを12位に引き上げた。

\* 協会側の再計算により、リーグワン12チームの最終順位が確定された。

#### ◎「谷口は近鉄の人間や」

\* 「なめたレポート」を出したトヨタが、会長の「鶴の一声」で逆転した。

#### ◎協会から完全に外されて

\* 7/16にリーグワンは発表され、筆者は6月には完全に協会から外されていた。

## 第6章 日本社会を蝕む「おっさん」たちの正体

### ◎「口外するな」という"脅し"

\* 2021年7月、協会から「内容証明郵便」で「口外するな」との脅しを受けた。

\* 筆者はそれまで沈黙を保ってきたが、自己防衛のために考えを改めた。

### ◎「おっさんの価値観」が招いた失敗

\* この本は審査の内幕暴露本ではありません。このような組織の硬直化は、日本の各所で起きているのでは。

### ◎中根千枝さんが指摘した「タテ社会」の問題点

\* 「失敗の本質」や「タテ社会の人間関係」が日本的組織の問題点を論じたのは昭和の時代の事。

\* しかし「令和のラグビー協会の話ではないか」と感じるくらい、現代においてもその指摘は普遍性を帯びている。

### ◎社会を劣化させる「おっさん」の正体

\* 偉い人の前では絶対服従、大義よりも組織の論理——そんな大人になりたくない、かつては考えていた人たちが、その理想を曲げて「おっさん」になってしまっている現実があるのです。

### ◎「おっさん化」は老若男女共通の病理

### ◎「失われた30年」でおっさんが大増殖

\* 平成時代の経済停滞を「失われた30年」と評しますが、この期間は女性の社会進出でも「失われた30年」でした。

## おわりに

\* 「おっさんの掟」によるガバナンス不全のラグビー協会との2年間でしたが、ラグビー界の発展を心より祈っています。

以上